

《履修上の留意事項》遠隔授業のみ実施

《担当者名》○福田真二 橋本竜作 小林健史

【概 要】

言語発達の阻害要因である特異的言語障害、学習障害、注意欠如/多動性障害、脳性麻痺、自閉症スペクトラム障害に関する様々なトピックスに触れ、言語発達障害についての知見を深める。

【学習目標】

多様なタイプの言語発達障害について知見を深める。

1. 特異的言語障害児に見られる言語発達障害の特徴を理解する。
2. 注意欠如/多動性障害児、学習障害児の障害背景とその支援方法を理解する。
3. 自閉症スペクトラム障害児、脳性麻痺児の言語発達の特徴とその支援方法を理解する。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	ガイダンス 特異的言語障害	科目の概要、学習目標、講義日程、学習内容、評価方法、読書課題、推薦図書、学習の準備、オフィスアワーの活用法等を理解する。 定義/歴史/診断基準	福田真二
2) 3	特異的言語障害	サブタイプ化の試み : DSM-III/IV-TR/Vの分類と症状の言語学的特性 【読書課題】	福田真二
4	特異的言語障害	サブタイプ化の試み : Allen & Rapinの分類と症状の言語学的特性 【読書課題】	福田真二
5	特異的言語障害について (課題提出)	これまでの講義で学んだことを基に、特異的言語障害のサブタイプ化についてレポートを提出する。	福田真二
6	発達段階に応じた支援法	前言語期、語彙獲得期、幼児期、学童期の支援について学ぶ。	小林健史
7) 8	自閉症スペクトラム障害	自閉症スペクトラムの子どもの言語・コミュニケーションの理解と支援について学ぶ。	小林健史
9	脳性麻痺	脳性麻痺児の言語・コミュニケーションの理解と支援について学ぶ。	小林健史
10	学習障害	学習障害の神経基盤について学ぶ。	橋本竜作
11	注意欠如/多動性障害	注意欠如/多動性障害の神経基盤と支援法を学ぶ。	橋本竜作
12	評価のまとめ (課題提出)	乳幼児期の言語発達障害の報告書の書き方を学ぶ。 検査プロフィールを参考にして、発達課題に関するレポートを提出し、解釈について学ぶ。	小林健史
13	評価のまとめ	学齢期の言語発達障害の報告書の書き方を学ぶ。	橋本竜作
14) 15	障害に応じた支援法	事例を基に訓練計画の作成について学ぶ。	橋本竜作

【評価方法】

レポート課題 60% (30%×2課題)、定期レポート 40%

【備 考】

教科書 : 使用しない。

参考書 : 玉井ふみ 他 編 「標準言語聴覚障害学 言語発達障害 第2版」 医学書院 2015年
石田宏代 他 編 「言語聴覚士のための言語発達障害学 第2版」 医歯薬出版株式会社 2016年
Leonard, L. B. 著 Children with Specific Language Impairment (2nd ed.) The MIT Press 2014年

その他 : 適宜、資料を配付する。

【学習の準備】

福田担当分：

- ・予習は、指定された読書課題をして、理解できない部分をチェックしておくこと。(80分)
- ・復習は、講義の学習内容をまとめた勉強ノートを作成すること。(80分)

小林、橋本担当分：

- ・「標準言語聴覚障害学 言語発達障害 第2版」の資料を復習し、重要な内容をしっかり覚えて講義に臨むこと。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

(DP4) リハビリテーション専門職として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、適切に対処できる実践的能力を身につけます。